

平成23年度 事業報告書

大慈あんしんすこやかセンター

1. 《法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①地域包括支援センターは、介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」であるため、公正で中立性の高い事業運営を行う。
- ②地域の介護サービス提供体制を支える中核的な存在であるため、当該地域の特性や実情を踏まえた柔軟な運営を行う。
- ③主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師の専門職員が配置されているが、職員相互が常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の事務体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく。

3. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

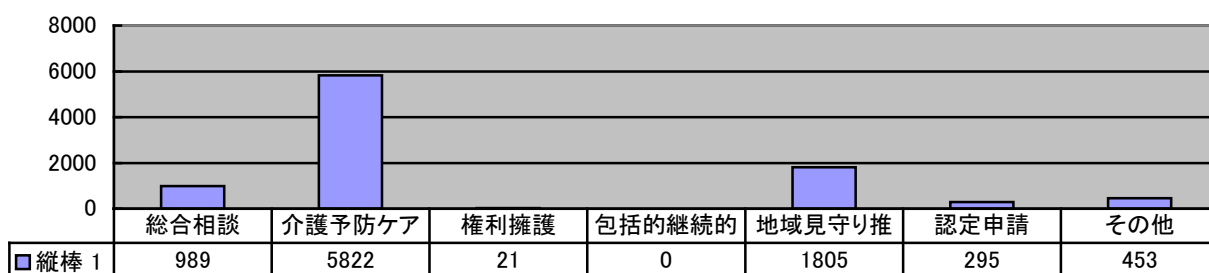
請求合計 3145 件 前年比 301 件増

(直営担当数：2525 件 前年比 188 件増 委託数 636 件 前年比 139 件増)

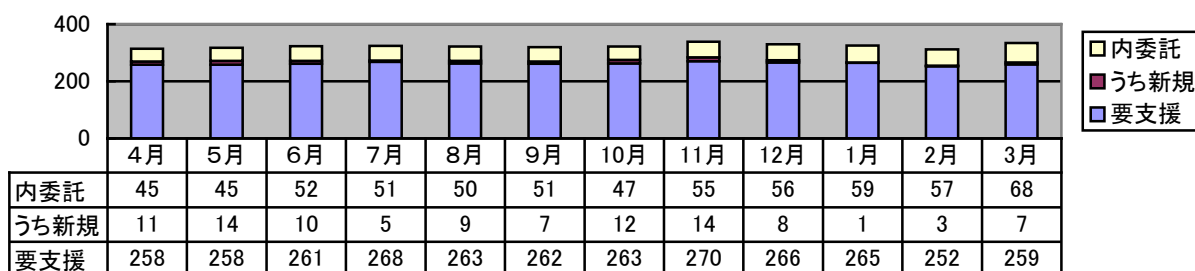
月平均は 262 件 (前年 237 件) で昨年と比べ増加している。

新規ケース数は年間 101 件。月平均 8.4 件。

相談対応実績



介護予防ケアマネジメント請求数



4. 《目標に対しての報告》

①介護予防支援を行っていく上で、利用者が安心して地域で生活していけるよう介護保険以外にもインフォーマルサービス等の連携強化に努める。

→現在、市営西神南住宅集会所で開催している「うたごえ喫茶」に来られているボランティアを「グループゆい」として組織化し活動を依頼している。今後は「うたごえ喫茶」だけでなく、地域の見守りも担えるよう活動をサポートしていく。

②宅地開発が本格的に行われている井吹台北町に関しては、民生委員と協力をして高齢者の実態把握を行う。

→依頼があれば適宜訪問し対応をしているが、積極的な実態把握までは行えていない。若い世代が多く地域包括支援センターの知名度も低いと思われるため、自治会等を通じて地域包括支援センターの広報を行い住民に周知をされた上で実態把握等の訪問活動を行っていきたい。

③「あんすこルーム（ひろば 大慈 ゆい）」を通じ、高齢者の見守り活動と高齢者の相談受付業務を行い、適切な関係機関へ繋げる。

→ルームがオープンして丸2年が経過したが、市の規定により週3日の開設日となっている。その為、住民より何の建物か分からないといった声も聞かれた為、8月より月に1度ルームの開放日を設けその際に手工芸等を楽しんでいただくという行事を行った。その甲斐もありルームに新規で相談に来られる方も増え地域の方々への周知も併せて行う事ができた。

④定期的に高齢者向けの生活情報誌を発行し、あわせて色々な機会を通して高齢者の総合相談窓口としてのあんしんすこやかセンターの広報に努める

→社会福祉協議会発行の「かきつばた」の裏面にはセンターの特色を活かした内容を掲載し広報はできたが、独自の広報誌の作成とまでは至っていない

5. 《会議》

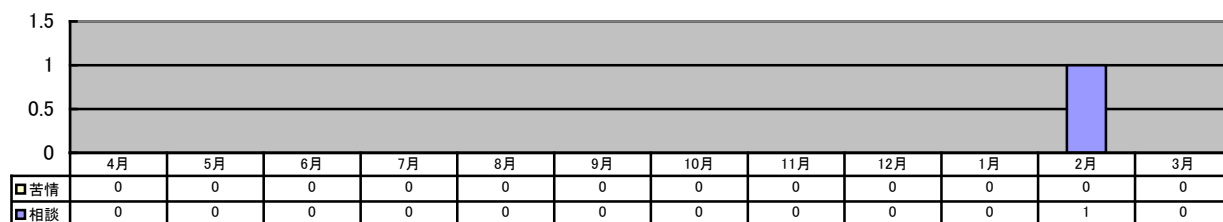
	会議名	
開催	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)	あんすこ単独会議(事業所内)
	西神地区ケアマネージャー連絡会	
参加	リーダー会議(事業所内)	行事委員会(事業所内)
	マナーアップ委員会(事業所内)	感染症防止対策委員会
	見守り推進員連絡会	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	職種別連絡会(主任ケアマネージャー・保健師・社会福祉士)	
	各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)	

6. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

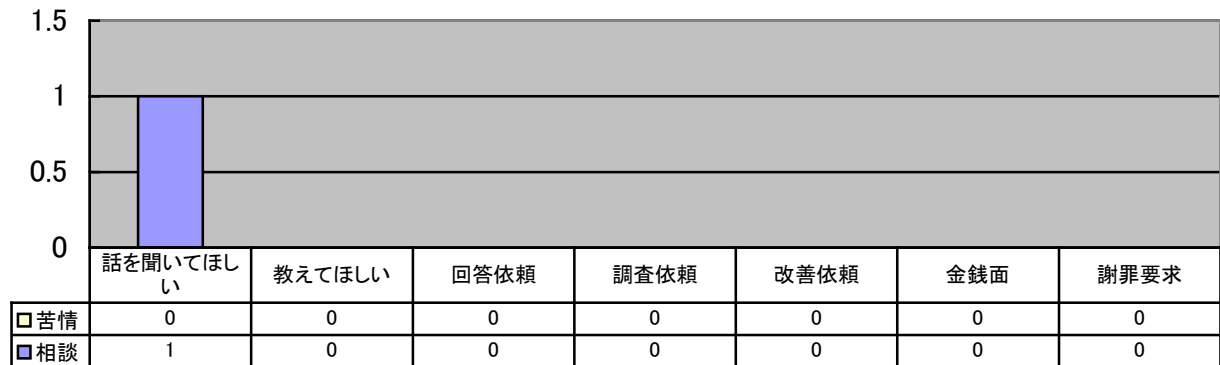
○報告件数

苦情 0件 相談 1件 計 1件



○要望分類

要望分類



○主な内容

介護保険更新申請の調査に対する苦情。調査に対する連絡を時間の調整をする親族ではなく本人に直接行ってしまった為、トラブルとなった。

○まとめ

介護保険の手続き上の連絡を誰にするかをきちんと把握できていなかった為、センターとしては持参された介護保険申請書をきちんと確認せずそのまま申請を行いトラブルとなった。その方は家政婦を利用されていたが調査員はヘルパーを利用されていると思い、調査を受けなければヘルパーの利用継続ができなくなると伝えたところ相手は激高されてしまった。何回も手続きを繰り返されている方でも制度の手続きをする際には、その都度きちんとした説明が必要であると思われる。

7. 《総括》

昨年度に引き続き、今年度も相談に対しては相談を受けた職員個人が抱え込むのではなく、センターの職員全員で情報を共有し迅速に対応を行った。民生委員や自治会、地域の方々も介護や制度の事で疑問に思ったことがあれば気軽に相談に来られ、地域の相談窓口としての役割は担えていると思われる。平成 21 年に市営住宅内にオープンした「ひろば大慈ゆい」においては、ルームの開放日を設けた事により気軽に来所される方も増え、知名度も上がっていると思われる。市営住宅内の方より近頃見かけないお年寄りがいると相談があり、自宅に訪問したところ自らでは動けなくなっている状態で発見し、医療機関に繋ぎ一命を取り留めたケースも中にはあった。現在様々なコミュニティ活動を地域にて開催しているが、このような活動を通じて住民相互が顔の見える関係となる事を目指していきたい。そして、相互に見守りが行える事が地域力の向上に繋がるとと思われる。